

BOOKS

教育関連書籍のご紹介

2008.12.15・

22



「暮らしと数学」易しく解説

新学習指導要領では、習得だけでなく活用や探究の学習過程を意識した学びの必要性を強調している。本書は、「数学は生活の中にある」「生活に役立つ数学こそ、数学の学び方のスタート」と主張し、学校教育の数学だけでなく、日常生活の中の数学的な考え方の大切さを訴えた本。

著者は、高校の数学教師から後に大学で、著名な数学者・小倉金之助の数学教育論を研究し、現在も数学教育実践研究会の会長として活躍している。

本書には子どもだけでなく、大学生や主婦、百貨店で働く販売員、自治会長など、さまざまな大人も登場し、生活の中の数学の役割に気付くというストーリー仕立てになっており、難しい数式などは出てこない。マンション購入でローン計算が必要になり、級数や対数などの知識も欠かせないことに気付くなど、生活の中でぶつかるさまざまなエピソードと、それが数学とどうかかわるのかが分かりやすく説明されている。

同書のほか「算数・数学への疑問から」「日常素材で数学する」「『洋算』摂取の時代を見つめる」など、シリーズ本もある。「なぜ、数学が必要か」—こんな疑問をぶつけてくる子どもたちに語る素材としても活用できそうだ。

(巳)

「生活数学」のすすめ

岡部 進 著

 ヨーコ・インターナショナル
 2100円